

平成 29 年度 第 2 回 廃棄物減量推進部会会議

発言要旨

1 【日 時】 平成 29 年 8 月 22 日 (火) 14:00～16:00

2 【場 所】 西部総合処理センター 管理棟 2 階 広報室

3 【出席者】 全 9 名 (内、1 名欠席)

項目	所属団体	役職名	委員名
環境計画推進 パートナーシップ 会議委員	大阪産業大学	教授	花田 眞理子
	NPO 法人子ども環境活動支援協会	理事	小川 雅由
	環境衛生協議会	会長	樋口 賢一
	公募市民		柳生 裕之
市民代表	甲東エココミュニティ会議	会長	山崎 由美
事業者代表	にしのみや環境サポート協同組合 (株式会社ヤマサ環境エンジニアリング)	常務取締役	川越 勉
	西宮商工会議所 (株式会社山一商会)	代表取締役社長	櫻田 茂
	生活協同組合 コープこうべ	理事	上田 久美子

【事務局】 全 11 名

局	部	課	役職名	職員名
環境局	—	—	局長	須山 誠
	環境事業部	—	部長	橋本 充信
	環境施設部	—	部長	野田 敏彦
	環境事業部	美化企画課	課長	森川 信也
			係長	加羅 一巳
			係長	吉岡 崇
	環境施設部	施設管理課	課長	山村 康浩
			副主査	森本 雅樹
		施設整備課	課長	永田 康平
			係長	高橋 能正
技師			宮部 格	

【会議支援】 1 名 株式会社ウエスコ

4 【傍聴者】 3 名

5 【欠席者】 1 名

項目	所属団体	役職名	委員名
市役所関係	学校教育課	指導主事	宇野 繁範

6 【会議の概要】

1. 出席者紹介

出席者の確認を行った。

2. 報告事項

1) 第1回廃棄物減量推進部会発言要旨の確認について

①花田部会長より、資料2, 第1回廃棄物減量推進部会発言要旨の説明が行われた。

→事前に送付し、確認をいただいております、質疑がないため承認とする。(委員)

2) 国及び兵庫県等の目標値と西宮市の現状の比較分析について

①国及び兵庫県等の目標値について

・事務局より、資料3のp3-1～p3-6に沿って説明が行われた。(事務局)

→判別しやすい文字の色を用いること。(委員)

3) 中核市等との比較分析について

①事務局より、資料4のp4-1～p4-9に沿って説明が行われた。(事務局)

・p4-7～p4-9のグラフは、良い方を上から示すこと。(委員)

・ごみの排出量、1人1日あたりのごみ量は生活系と事業系で分けており、把握できるが、リサイクル率は生活系と事業系で分けられておらず把握できない。生活系と事業系のリサイクル率を示すことはできるか？(委員)

→古紙類などは把握できるが、他は事業系と市民系で分別を行っているわけではないため、現状は分けてリサイクル率を示すことは困難である。(事務局)

→リサイクル率は、国の計算式で算出しており、他の市も含めて同様の計算式である。(事務局)

→事業系古紙を踏まえたリサイクル率、国の計算式では入らないがチャレンジにのみやでは計上している。(事務局)

・生活系と事業系を個別で把握し、それぞれの対策を打ち出すこと。(委員)

・ガラス類は平均値と比較して非常に少ない。選別方法などを考えてほしい。(委員)

・他市の収集方法を整理し、課題解決するための方法をデータ化してほしい。(委員)

・ごみ減量と資源化両方の対策が必要である。他市がリサイクル率をあげるためにどのような方法を行っているかまとめてほしい。(委員)

・横須賀市の集団回収量が多いが、西宮市と同様のことを行っているが、どこが違うか？(委員)

→横須賀市では資源回収倉庫を助成する制度があり、地域が資源を保管できるスペースを確保していること、利用しやすい環境があることと考えている。他に何が要因か調べ次回提示する。(事務局)

・集団回収の制度は、補助の制度または住民意識が問題か整理してほしい。(委員)

4) ごみ組成分析結果(生活系ごみ、事業系ごみ)報告について

①事務局より、資料5及び資料5-1のp5-1～5-1-4に沿って説明が行われた。(事務局)

→事業系に関しては1検体のみを行っており、後日残り2検体の結果も提示する。

(事務局)

→湿りベースと乾燥ベースの比較で厨芥類の割合が減っているが、乾かすことでごみ自体の減量を減らすことが出来ると示されている。(委員)

5) 課題のとりまとめ(分析結果、前回会議の結果より)について

①事務局より、資料6のp6-1～p6-3に沿って説明が行われた。

- ・優先順位が低くなることは、予算が付かないということか？（委員）
→予算の問題を抜きとし、課題の重さを考えた順位である。（事務局）
- ・折りたたみコンテナは、自治会がある箇所だけコンテナが配られているのか？またはごみステーションに対して全て配られているか？（委員）
→ごみステーションに対して希望全てである。（事務局）
- ・事業者に対する政策は、ごみの減量を行う方が事業者に対してメリットがあるなど、損得の判断が可能となるよう提示を行った方が良い。（委員）
- ・西宮の収集エリアごとのデータを把握できないか？地域によっての傾向を把握したい。（委員）
- ・モデル事業では、毎回ステーションごとに計量した数字や写真を公開し、先週と比較判断できるようにした。意識向上のため、自治会長を集めて説明会を行うなどの例もある。（委員）
- ・その他プラに関して、子供に教育を行うなどの啓発が必要である。また、半透明袋や透明袋にすることで、もやすごみ中のその他プラが判断できる。（委員）
- ・その他プラの回収率をあげるため、業者での処理方法を整理する必要がある。（委員）
- ・市民がその他プラを分別する際、大半が判断に困っている。また、汚れていても回収可能か市民に提示する必要がある。（委員）
- ・ごみアプリは住所を入れて写真や汚れ具合が判断できるよう考えられないか？（委員）

6) 市民、事業所アンケートについて

①花田部会長より、市民アンケート及び事業所アンケートの説明が行われた。

- 資料を持ち帰り、各委員で内容を検討することとする。（委員）
- 必要に応じて、委員の皆さんにメールで確認を行うこと。（委員）
- 内容の修正は、今月までとする。（委員）

3. 確認事項

1) 今後のスケジュールについて

事務局より、第3回廃棄物減量推進部会は11月中旬を予定していることが説明された。